

環境

環境立県くまもとを目指して

シリーズ・環境講座 〈水資源編〉

「環境保全とエコライフ」

残そう！未来への遺産。

節水、そして水保全の意義とは。

全国に誇れる貴重な水資源の維持と確保を

熊本が全国に誇れる水資源・地下水。近年、かん養域の減少や地下水プールの温床となる白川中流域での農地(水田)の減少、地下水採取量の増加にともない熊本

地域での地下水位が低下。天然水が自慢の水の都・熊本にも黄色のランプが点滅しています。今回は熊本の貴重な地下水の形成と水資源の保全の意義を追ってみました。

熊本の水は全国トップクラスの「おいしい水」

九州の中央に位置し、今なお活動を続ける雄大なカルデラ火山「阿蘇」。その西麓に広がる地層は、数千年以上前、阿蘇山の噴火の際に噴出した火山灰や溶岩が幾重にも堆積したものです。これらの地層は、自然のフィルターの役目を果たし、地下を流れる水をろ過。地下水がたっぷりと時間をかけて、ミネラルや炭酸ガスを含んだ清冽な地下水を生み出しています。こうした地下構造がおいしい水を作っています。

白川中流域には、地下水を蓄える巨大な地下水プールがあります。ここで蓄えられた豊富な水は、小さな穴や割れ目の多い砥川(とがわ)溶岩と呼ばれる地層を通り、熊本市の水前寺や江津湖周辺等で地表に湧き出しています。

熊本地域の地下水かん養域は、金峰山、植木台地から阿蘇西麓に至るまで、広い範囲に及んでいます。熊本市には八景水谷・水前寺・江津湖などの湧水があり、市民のオアシスとして親しまれています。これらの湧水は、いずれも阿蘇西麓の広大な火山性台地の末端にあります。

時間をかけて生み出された清冽な地下水。熊本市の水道水は、この天然の地下水を使用。60万人以上(市町村合併前)もの人口が地下水で賄われている都市は、全国でも例をみません。また、

厚生労働省の「おいしい水」研究会で、全国3位に選出された水でもあります。

地下水位低下に歯止めが急務

全国に誇れる良質な水を持つ熊本地域の地下水位は、近年、長期的な低下傾向を示しています。また、江津湖などからの湧水量も減少しています。

地下水は、雨水などが地下へ浸透していく量(かん養量)と生活用水などとして汲み上げる量(採取量)のバランスの上に成り立っています。かん養量よりも採取量が多ければ地下水は「赤字状態」になり、減少してしまいます。

減少の原因としては第一に都市化によるかん養域の減少、第二に地下水プールの役目を果たしている白川中流域農地(水田)の減少、第三に地下水採取量の増加などが主なものとして挙げられます。

地下水量を保全するためには、かん養量を増やすとともに、採取量を抑制しなければなりません。現在、かん養量を増やす一環として民間企業、行政、地域住民の協力で阿蘇地域を中心とした水源かん養域での植樹活動、清掃活動の輪が広がっています。また、白川中流域の農地では休耕田でも水を張る取組みや、水田を減らさないようにするための努力が始まっています。さらに、採取量の増加を防ぐため、熊本市などは積極的に市民や

●熊本の地下水の流れ



企業・団体などを巻き込んで節水運動の展開もスタートしています。

「貴重な地下水を守る」ためには、一人ひとりの努力の積み重ねしか方法は今のところはありません。親から子へ、そして孫へ未来への財産を今から残すことが大事になってきました。

●地下水位の低下の主な原因と対策

| 原因 | 対策 |
|-------------------|--------------------------|
| ・都市化によるかん養域の減少 | → かん養域の拡大を図る |
| ・白川中流域での農地(水田)の減少 | → 農地(水田)の確保・維持及び水張りなどの実施 |
| ・地下水採取量の増加 | → 徹底して節水活動の推進を図る |

●家庭でできる節水方法

台所

蛇口のごまめな開け閉めで、水の使用時間を5分間短縮すると、約30ℓの節水

洗濯

お風呂の残り湯を利用すると、約100ℓの節水

洗面

コップ3杯での歯磨きは、3分間蛇口を開けっ放しにするより、1回で約17ℓの節水

風呂

シャワーのごまめな開け閉めで、水の使用時間を3分間短縮すると、約36ℓの節水

トイレ

大レバーで1回約11～15ℓ、小レバーで1回約6～8ℓの水が流れる。レバーの使い分けをすると、1回で約5～7ℓの節水

(取材協力・熊本市上下水道局)

株肥後銀行と(財)肥後の水とみどりの愛護基金の環境保全への取り組み

266団体・13個人を顕彰



「ふるさと」の貴重な財産ともいうべき地下水を枯渇と汚染から守ろう」という長野吉彰理事

長(当時肥後銀行頭取)の提唱から、昭和62年に「肥後の水資源愛護賞」(現在の肥後の水とみどりの愛護賞)が創設されました。この賞は、水資源保全活動に取り組んでおられる団体、個人を対象としており、創設以来延べ266団体・13個人の皆さんを表彰しました。

この活動は、平成4年設立の(財)肥後の水資源愛護基金に引き継がれ、基金では顕彰活動のほかにシンポジウムの開催、節水器具展、植樹等々、幅広い活動を行っています。環境問題が一段と緑化推進に尽力すべき段階を迎えたので、平成20年9月、財団の名称を「肥後の水とみどりの愛護基金」へ変更しました。

植樹活動は約7万8千本に

平成13年から水源かん養林育成のための植樹活動を開始し、これまでに阿蘇地区を中心に植樹活動を行ってまいりました。平成18年2月には、環境活動をさらに発展させるため阿蘇市小倉地区の森林52haを購入し、「阿蘇大観の森」と命名、水源かん養林の保全・育成に取り組んでいます。



今年の2月27日には、九州電力熊本支店と肥後銀行・肥後の水とみどりの愛護基金の3者で7,500本、3月6日には、地元企業(光進建設、TOTO、丸菱)と合同で6,000本の植樹を行いました。

また、4月10日には肥後銀行グループの役員や家族、地元関係者など約850人が参加し、苗木11,000本を植樹し、各企業のご協力もあって植樹総本数は約78,000本となりました。

緑化推進に一段の努力

水資源のかん養並びに温室効果ガス、特にCO₂削減による地球温暖化防止のために、今後も植樹や下草刈りなどの森林の保全育成など緑化推進に取り組んでまいります。

ふるさと熊本の水とみどりの愛護に取り組んで24年

「くまもとの質・量ともに日本一の地下水を子や孫・曾孫に残そう」というご提案に、
あたたかくご賛同、ご支援いただきました皆様に、こころから感謝申し上げます。



「肥後の水とみどりの愛護賞」顕彰事業



シンポジウム・セミナー等の開催・支援



広報普及活動



植樹・清掃等の実践活動

肥後銀行 肥後の水とみどりの愛護基金

〒860-0817 熊本市練兵町1番地